

水川寿也リモート講習会 開催

昨年度、コロナ禍の中開催され大変好評だった、古典曲「夕顔」の初のリモート講習会に続き、今年度は、数々の現代邦楽作品のヒットメ

ーカー、尺八演奏家・作曲家の水川寿也氏による Zoom による講習会が開催されました。



第 1 回目(11 月 20 日)は箏・尺八二重奏「涼流」、第 2 回目(12 月 11 日)は、箏・17 絃・尺八三重奏「雪舞」でした。さらに各回の録画を当日視聴できなかった受講者対象に期間限定で「見逃し配信」を実施した結果延べ 123 名が受講しました。

(2 面に続く)
(担当理事 関野由美子)

◀「雪舞」(水川寿也作曲)の WEB 講習。右から水川寿也、大島菜穂子、関野由美子の各氏(12 月 11 日 2 回目講習ビデオから)

2022 年 10 月 22 日(土)日本時間 19 時から世界各地をつないで邦楽に関するオンラインディスカッションを開催しました。全奏協初の試みです。

邦楽の魅力を世界に発信

参加者は 28 名。その内、外国人は 14 名でした。参加希望者がいたにもかかわらず時差の関係でアメリカが早朝となり参加を取り消した方が出たという事例が出て今後の課題として残りましたが、ヨーロッパから多く参加者を得て開催されました。



司会は私の門下である、ロバート・グリフィン、ソニア・ハルリ、カメラワークをジュリアン・ドマンスキーとすべて外国人でチームを組み、ディスカッションに臨みました。(2 面に続く)

(担当理事 中川明子)

写真 世界各地からの参加者の
スクリーンショット画面

主な記事

- 2 面 ・水川寿也 リモート講習会 (関連記事)
- ・邦楽の魅力を世界に発信 (関連記事)
- 3 面 ・第 9 回全奏協邦楽コンクール開催へ
- ・クレール子ども食堂で和楽器演奏会
- ・すべての子どもに和楽器を
- 4 面 ・2023 (令和 5) 年度 総会のご案内
- ・本会理事、EJM 和楽器紹介動画制作に協力
- ・理事長ご挨拶
- ・編集後記



全奏協のホームページ
QR コード

邦楽の魅力の世界に発信（1面から）



▲写真 運営スタッフ。左から、ジュリアンドマンスキー、ボビーグリフィン、ソニアハリ、中川雅玲の各氏。

90分の英語での各種説明と質疑応答そして討論は終始和やかに進み好評のうちに終了いたしました。

はじめに自己紹介を実施。その後、司会のボビーグリフィン氏が邦楽の歴史を説明しました。

そして、和楽器演奏の実例紹介として「春の海」「六段」などの演奏をビデオで視聴しました。

その中で、音階の説明をボビーグリフィン氏が平調子の都節音階と西洋音階のダイアトニック（全音階）と対比して説明。また箏譜（縦譜）の読み方も画像を使って説明しました。可能な限り箏、三弦はその場で

ボビーグリフィン氏と中川が実演し解説しました。

Q&Aでは海外での楽器調達の方法、邦楽の好きな曲、ギターと三味線の共通点や違い、参加者の箏、三弦をはじめた動機、箏教授の資格を取るにはどうしたらいいかなどが出されました。

課題はございますが初めてのオンラインディスカッションとしては、大変有益で楽しい時間を参加者と共有できたことは嬉しく思います。

今後も邦楽の良さを国内外に発信してまいりたいと思います。

（中川）

水川寿也リモート講習会（1面から）

講習は講師の水川先生他、箏の大畠菜穂子氏、関野由美子の模範演奏から始まりました。

講習曲の2曲は次のような特徴があります。

「涼流」は曲を通してほとんど尺八がメロディを取りますが、箏も次々と難しい変奏になって行き、尺八が歌いたい流れに常に寄り添い、スムーズに合わせていくことが求められるところが難しいです。

「雪舞」は特に箏の手が超絶な速弾きを必要としますが、難しい・速い、の理由で何を弾いてるのか分からない演奏ではなく、尺八の流れの中でも、箏の主張を取り入れようと心がけ、聴いている人に、景色が浮かぶような演奏が求められます。

このような曲を曲の始めから、フレーズを区切ったの丁寧な説明と、尺八や箏の手元を映しながら繰り返し弾くなど分かりやすい進行で、1時間半の講習時間がアツという間に過ぎました。

受講者からも、楽譜のみでは分からなかった音

色の解釈や表現の奥深さ、次のメロディへのつなげ方が理解でき、何より作曲者自らの曲に対する想いを聞くことができたことが良かったなどの感想が寄せられました。

実は、事前に水川先生宅で見本演奏を収録し編集作業も終了していましたが講習当日「生演奏の方が臨場感もあって受講者にもその方が良いだろう」と水川先生のご意見で急遽2曲とも生演奏となりました。

遠隔でも自宅で気軽に受講できるオンライン講習会は、この時世にあって大変便利であり、その時間だけでも講師を中心に全国の皆さまと繋がれる喜びを感じることができます。

今度は皆さまと一緒に集まって合奏の一体感を実感する講習会を企画できればと思います。

最後になりましたが配信用カメラ、音響の収録等で本会副理事長の立花茂生氏の奮闘に感謝いたします。（関野）

リモート講習のメリット

コロナ禍で電子機器を使ったリモートでの講演や学習を目にすることが増えた。その利点は映像が細部まで見える点だ。遠隔講習では会場に集まる講習では見にくい手や口元の細かい動きを大写しするなどし、さらに「見逃し配信」を使えば繰り返し見ることができるなどの工夫が盛り込まれた。（T）



▲写真上 関野由美子講師が演奏する「雪舞」での速弾きの手の動き。手元を間近に見ることができる。写真下 水川寿也講師の手の動きや尺八の息の入れ方の解説。

第9回全国邦楽合奏協会邦楽コンクール開催へ

コロナ禍で中断していた、NPO 法人全国邦楽合奏協会主催の標記コンクールが2023年8月12日(土)に大阪府大阪狭山市で開催されます。

前回から3年「今年は開催しないのか」という問い合わせもいただく中、この度第9回NPO 法人全国合奏協会邦楽コンクールを開催する運びとなりました。今回は、開催場所を大阪南東部、大阪狭山市 SAYAKA ホールに変更しての開催です。小学生対象の「萌(ホウ)の部」に最優秀金賞を1組、そして中学生以上を対象とした「達(タツ)の部」に最

優秀金賞、銀賞、銅賞を設け、さらに全出場者を対象に奨励賞を1組選定します。なお、今回は過去に当コンクールにおいて最優秀金賞を受賞なさった方も応募いただけるようにしました。審査は箏曲演奏家の吉岡紘子、石川憲弘、菊重精峰、尺八演奏家の石川利光、作曲家の前田智子の各氏による審査です。いかなるジャンルの音楽であっても、技術の追及のみな



◀第9回全国合奏協会
邦楽コンクール募集要
項 (pdf ファイル)

らず、高い音楽性や曲に対する理解の深さなど、音楽に対する真摯な姿勢を高く評価して審査を行います。コンクール要項は全奏協西日本本部ホームページをご参照ください。
(常務理事 麻植志志)

クレエール子ども食堂で和楽器演奏会

NPO 法人クレエールは障害のある人が社会活動できるように支援する団体で、子ども食堂を併設して食事の提供、大学生たちの子どもたちへの課外学習支援などを行っている。徳島市中心部にある万代中央ふ頭、かつてにぎわった港湾の倉庫を利用した建物がその拠点。子どもたちが芸術にふれ、音楽のあふれる広場にしたいと喜多條理事は語ってくれた。全奏協に対して和楽器演奏を依頼され、2022年7月23日

と2023年1月28日の2回にわたり徳島邦楽集団の協力を得て演奏会が行われた。両日とも昼食前の時間帯に50名近い子供たちと保護者が集った。1回目は「童夢」「ホテル」「夏は来ぬ」、2回目は「三枚のお札」「さくらさくら」「アメージンググレース」のほかに、ウクライナから避難している一家族の参加もあって「ウクライナへの祈り」も演奏。両日とも「さ



▲ 箏を体験する子どもたち (2023.1.23)

くらさくら」の楽器体験で初めての箏演奏を楽しんでもらった。
(理事 英 崇夫)



写真上 飯尾敷地小学校 (22.10.25)
写真下 鳴門西小学校 (23.1.13)

すべての子どもに和楽器を

2022年度、とくしま県民活動プラザの依頼により、吉野川市立飯尾敷地小学校と鳴門市鳴門西小学校で和楽器体験授業を全奏協会員2名と他1名が行った。

2022年10月25日(火)吉野川市立飯尾敷地小学校では4,5,6年生合わせて68名の児童が日本の伝統楽器である箏について学んだ。

まずは、講師による模範演奏「さくらさくら」「君をのせて」を通して実際に音色を聴き、「さくらさくら」を自ら体験演奏することで、箏のよさを味わい・楽しむことができた。

頂いた感想文では「きれいな音で心が落ち着きました」「心がぼ

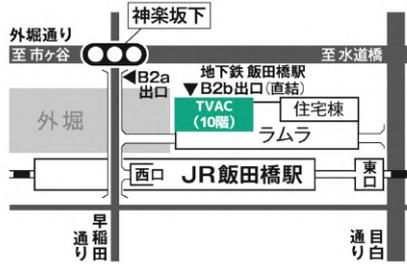
かばかしました」「難しかったけど楽しかった」「また弾きたい」というたくさんの嬉しい感想を頂いた。

小学校では、3年前から4年生の音楽でも箏の授業を扱うようになり、学校では楽器に直接触れたり、指導者不足であったりするため、十分な教育活動ができないということが課題になっている。すべての子どもたちが、自分の身体を使って伝統文化に触れ、楽しむことで邦楽が未来へと受け継がれていくと考える。当協会は、これからも子どもたちが、もっと身近に伝統文化に触れる機会を増やしていきたい。

(本事業講師 平岡香織)

令和5（2023）年度総会のご案内

日 時：5月28日
 開始時刻：13：30（受付13：00）
 17：00から交流会
 会 場：セントラルプラザ10階
 東京ボランティア・
 市民活動センター（会議室A）
 略 称：TVAC
 所 在 地：〒162-0823 東京都新宿区
 神楽河岸1-1
 電 話：03-3235-1171（代表）
 最寄り駅：JR 飯田橋駅 地下鉄飯田橋駅からは B2b 出口で直結



総会後に10周年記念事業として「全奏協創立のころ（仮題）」と題して、座談会が開催される。藤本玲理事長、田中隆文顧問他により本会立ち上げの目的や経

緯が披露される。その際の苦労話や裏話
 も明かされるかも知れない。
 是非、この機会をお見逃しなく。（T）

理事長ごあいさつ



2020年1月に発生したコロナ禍により、私たちは三年もの間マスク着用を強いられました。この春ようやくマスクが解禁され、スポーツ観戦などの声出し応援も可能となり嬉しい限りです。卒業式にマスクをとったTVの中の写真は、とても晴れやかでやはり生身のふれあいが大切なのだと再認識した瞬間でした。

理事長 藤本 玲

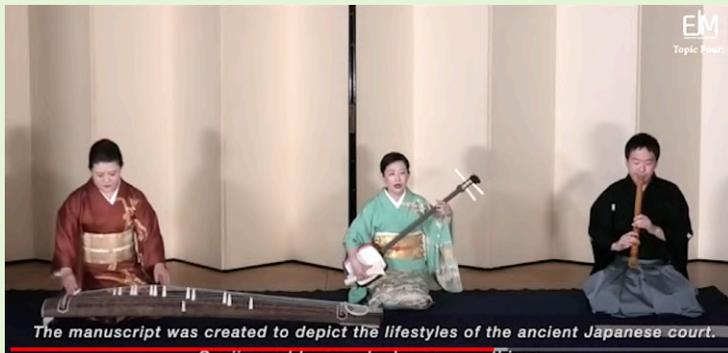
全奏協ではコロナ禍に翻弄されながらもウェブによる講習会やSYNCROOMを活用しての合奏など、新たなスキルアップにチャレンジしてきました。逆境の中でもあきらめず少しずつ新しいことに挑戦できた事は、ひとえに支えて下さった会員の皆様のおかげと心より感謝しております。

皆様、5月28日の総会、東京ボランティアセンターでお待ちしております。

本会理事 EJM和楽器 紹介動画制作に協力

本会の釣谷真弓、中川明子両理事の協力で、Exploring Japanese Music (EJM) が、外国人向けのYouTube動画「箏Vol.2」「箏Vol.3」を作成公開した。EJMは東芝国際交流財団の協力を得て継続的に外国人のための日本音楽紹介シリーズ「日本音楽の魅力」を発信している。釣谷理事（企画構成）の実演の他、Vol.2では「夕顔」が、Vol.3では「春の海」「瀬音」が

視聴できる。司会は中川理事門下のポピュラーフィン氏。演奏は吉川由里子、久松彩子、平野寿里（以上箏/三弦）そして田野村聡（尺八）の各氏が担当した。「外国の方のお知り合いに是非ご紹介頂きたい思います。私は日本語で話しているの、画像やプロの演奏する動画、そしてシルクロードで私が撮影してきた現地の音楽や敦煌壁画（レプリカ）なども紹介されていて、英語がわからなくても楽しめると思います」と釣谷理事は言う。（T）



写真上 Koto Vol. 2 「夕顔」の演奏。左から吉川由里子、久松彩子、田野村聡の各氏
 写真下 Koto Vol. 3 「瀬音」の演奏。左から吉川由里子、平野寿里の各氏。それぞれのQRコードは各YouTube動画にリンクしている。

編集 後記

植木枝盛の墓前祭（無天忌）で尺八を演奏する機会を得た。植木は高知県詞でもある「自由は土佐の山間より」という名言を残し板垣退助同様、自由民権活動家だ。第1回衆院選で当選したが任期途中の1892年1月23日、36歳で没した。

植木の功績に憲法草案（植木憲法）がある。後の憲法学者、鈴木安蔵が中心となり植木憲法を基に草案を策定し1945年日本国憲法に大幅に反映された。一部に現憲法をアメリカの押しつけだと言う人もいるが、現憲法は植木憲法がベースとなっているのは紛れもない事実だ。植木は世界各国の憲法を比較研究した。女性参政権を19世紀に唱え植木の当選した第1回衆院選では実際に土佐の女性が票を投じている。第2回衆院選からは女性不可になったが。

4月からのNHK朝ドラ「らんまん」は高知県の偉人で植物学者の牧野富太郎がお茶の間を賑わす。植木は牧野より6歳上の同世代だ。牧野の実家の作り酒屋「司牡丹」では「自由は土佐の山間より」という超辛口の酒も造る。二人が絡むのか絡まないのか、呑兵衛としても楽しみだ。（T=広報担当 高橋哲也）